

# 中途失聴・難聴者の意思疎通支援事業は

**質問** 中途失聴・難聴者の方々は、聞こえないが普通に話ができる。そのため、故意に無視したなどと誤解されることがあり、悩みや困難につながっている。意思疎通支援事業の利用状況は、

**市長** 意志疎通支援事業の派遣実績は、平成26年度手話通訳42件、要約筆記66件で計108件である。通院時の医師の説明、入学式・卒業式や授業参観、車いすなどの補装具の調整内容を通訳し、派遣先は多岐にわたる。市主催の講演会に配置したい。

**質問** 「耳マーク」を設置すべきでは。

**市長** 庁舎内で必要に応じて筆談の対応をしている。「耳マーク」の周知や窓口表示について徹底する。

## 病院・診療所の今後は

**質問** 医師・看護師の勤務状況は、**病院事業管理者** 病院・診療所の医師は、外来診察、病棟回診、各種検査、訪問診療、緊急対応、当直、診断書作成など昼夜を問わず忙しい毎日となっている。看護師については、前沢診療所の休診により看護師を各市立医療施設に配置換えしたが、看護師不足の中でこの異動により何とか運営をしているものの、依然として余裕がある状況ではない。

**質問** 前沢診療所の再開の見通しと新市立病院の構想は。



たかはし まさひろ 高橋 政一 議員(市民クラブ)

**市長** 前沢診療所については、特定の医師と協議をしている。招へいに向けて誠意をもって対応していく。新市立病院については、胆江地域の医療水準の低下を招かないよう、医大や県立病院、県や奥州医師会と十分協議をしながら進めていく。

※要約筆記者  
話した内容を、その場で手書きやパソコンで伝える人



**質問** 農業後継者の確保が急務であるという観点から青年就農給付金、新規就農者、第三者経営継承について伺う。

**市長** 奥州市での青年就農給付金は平成24年度15件、25年度13件、26年度5件認定され、27年度は現時点で7件認定されている。給付対象者へは普及センター、農協等の関係機関と連携し、技術面・経営面のアドバイスを行い、今後も地域で活躍できるよう支援する。新規就農者はここ数年は年間20人前後が就農しており、昨年度は25人である。本市の支援策は農業研修事業費補助、農業者育成資金利子補給事業等がある。第三者経営継承については農業委員会等で相談に応じており、担い手が営農を継承するよう誘導している。

## 農業を観光のメニューに

**質問** 農業を観光振興に活用すべきという観点から農業体験ツアー、農家民泊について伺う。

**市長** 農業体験ツアーは関西から米卸や米販売店の皆様を対象に田植と稲刈りを体験する「岩手のまんま」や田んぼアートの田植と稲刈り体験、農業ボランティアを受け入れるワーキングホリデーなど、市内の団体・個人が自発的に活動している。これらは、農業の理解、奥州市の知名度向上、来訪者の増加に寄与している。今後も活動している団体・個人の意見を伺い必要に対応を行う。

## 地域農業の担い手確保を全力で



支援策活用ガイド(農林水産省)

## バイオマスの活用推進

**質問** 奥州市バイオマスタウン構想をさらに発展させ、国の募集する「バイオマス産業都市」に取り組むべきと考えるが。

**市長** 平成25年度から募集が始まり今までに22地域が選定されている。奥州市では現在地域内の利用可能バイオマスの算定などの基礎的データを調査中であり、その後に検討したい。

※青年就農給付金  
青年の就農意欲の喚起と就農後の定着を図るため、就農前の研修期間(2年以内)及び経営が不安定な就農直後(5年以内)の所得を確保する給付金を給付します。  
(農林水産省HPより)



ちば まさひろ 千葉 正文 議員(奥和会)